

令和 2 年度

登録左官基幹技能者認定試験問題 (60分)

近畿ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて 10 頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者制度の意義と役割に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 技能者は、国土交通大臣の登録を受けた機関が実施する登録基幹技能者講習を修了することで、登録基幹技能者として認められる。
2. 基幹技能者制度は、建設省（当時）が平成7年4月に策定した「建設産業政策大綱」において「新たな技能者像」として基幹技能者を重点的に確保・育成できるようにスタートした。
3. 平成20年1月に建設業法施行規則が改正され、新たに「職長制度」として位置付けられることとなった。
4. 国土交通大臣が登録した機関が実施する登録基幹技能者の修了者は、登録基幹技能者として認められ、経営事項審査において加点評価（3点）の対象となっている。

問題 2 職業能力基準のイメージに関して、最も不適当なものはどれか。

1. レベル1は、見習い技能者である。
2. レベル2は、中堅技能者である。
3. レベル3は、一般技能者である。
4. レベル4は、登録基幹技能者である。

問題 3 登録基幹技能者制度の活用にあたって、発注者の声に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 技能労働者の位置付けをランダム方式の評価対象にすることにより、登録基幹技能者を積極的に育成している企業が元請企業から活用される機会が増え、老年者の入職促進、若者への技能の伝承につながる。
2. 公共工事の品質確保やインフラの維持管理のため、中長期的な担い手が求められる中、登録基幹技能者制度は技能労働者のレベルアップにつながる。
3. 登録基幹技能者となった技能労働者が若手の目標となり、担い手の育成にも寄与する。
4. 登録基幹技能者の資格保有者が少ないことや、職種により登録者数に偏りがあることから、工事によっては、登録基幹技能者の手配に苦労している実態がある。

問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 施工技術に係る基本的な知識を有し、工事の各作業工程を通じて的確に施工管理を行うことができる。
2. 安全管理に係る基本的な知識を有し、ボランティア活動、クリーン活動等の一連の安全管理活動ができる。
3. 品質管理に係る基本的な知識を有し、工事工程表に基づき工程の進捗管理を行うことができる。
4. 品質管理に係る基本的な知識を有し、不測の事態の発生に対応する修正工程の立案ができる。

問題 5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 仕事に信念を持ち、決断力を養ってこそ人はついてくる。
2. 人を率いるには、自己愛に勝るものはない。
3. 多くの理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行する方が説得力は大きい。
4. リーダーとして大切なことは信頼であり、約束を守るところから得られる。

問題 6 登録基幹技能者の現場において日常的に実施している業務に関して、**最も不適当**なものはどれか。

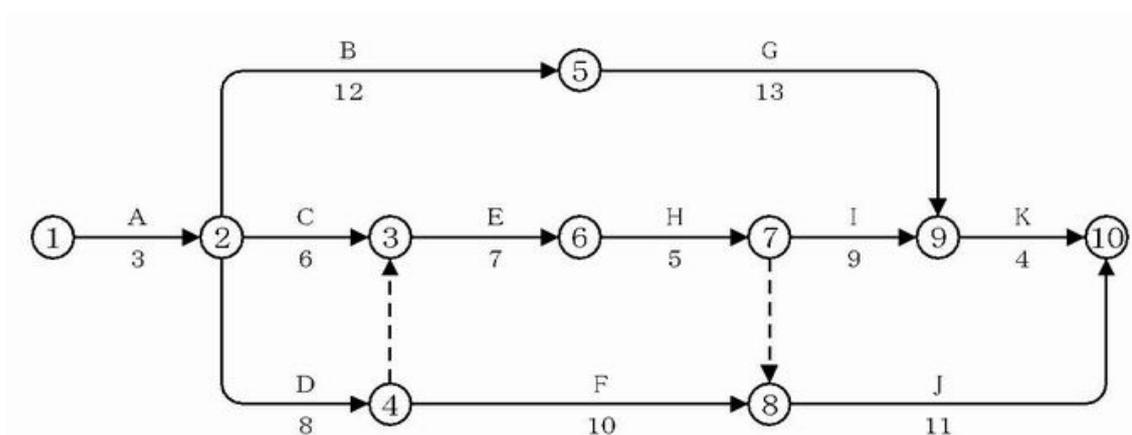
1. 施工方法の決定
2. 施工管理技術者への作業指示・指導
3. 担当工程の進捗管理
4. 品質の確認・検査

問題 7

レベルに応じた技能者の指導・教育に関して、最も不適当なものはどれか。

1. OJT は、上司の仕事そのものである。
2. OJT は、部下のペースに合わせる。
3. OJT では、仕事のペースを落として部下の育成に注力する。
4. OJT では、部下に外部との接触の機会を提供する。

問題 8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この図の矢線は、アクティビティ（作業）を示している。
2. この工程表のクリティカルパスは、A→D→E→H→Jである。
3. この工程表における工事の工期は、36日である。
4. ⑧の最早開始時刻（EST）は23日である。

問題 9 建設工事標準下請契約約款において、支給材料および貸与品に関する事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 元請負人から下請負人への支給材料及び貸与品の品名、数量、品質、規格、性能、引渡し場所、引渡し時期、返還場所又は返還時期は、設計図書に定めるところによる。
2. 工程の変更により引渡し時期及び返還時期を変更する必要があると認められるときは、元請負人と下請負人とが協議して、これを変更することができるが、工期又は請負代金額は変更できない。

3. 監督員は、支給材料及び貸与品を、下請負人の立会いの上検査して引き渡し、下請負人は、その品質、規格又は性能が設計図書の定めと異なり、又は使用に適当でないを認めるときは、遅滞なくその旨を書面をもって元請負人又は監督員に通知する。
4. 元請負人は、下請負人から品質、規格又は性能が設計図書の定めと異なり、又は使用に適当でない等の通知を受けた場合において、必要があると認めるときは、設計図書で定める品質、規格若しくは性能を有する他の支給材料若しくは貸与品を引渡し、又は支給材料若しくは貸与品の品質、規格等の変更を行うことができ、元請負人と下請負人とが協議して、工期又は請負代金額を変更する。

問題 1 0 ブレインストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、**最も不適当なもの**はどれか。

1. BS のルールでは、他人の意見を批判しない、量を出すことが優先されることから、安心して誰もが自由にアイデアを述べることができる。
2. BS は、10～15 人程度の人数の集団で、ある人の意見やアイデアに関して他の人たちが連鎖反応を示し、多彩・豊富・独創的な考え方を引き出す働きがある。
3. BS におけるアイデアや意見に関する連鎖反応は、チーム全体の楽しさや競争心を生み出すことにつながっている。
4. BS のメンバーは、専門家、他分野の専門家、ゼネラリスト等で構成することが望ましい。

問題 1 1 塗り壁の故障の原因、内容、是正措置とそれぞれの組み合わせに関して、**最も不適当なもの**はどれか

1. 下地の吸水が激しいときは、吸水調整材を水で4～5倍にして下地に塗布した。
2. エフロレッセンスは、しみ・はく離を発生するので、除去することが必要である。
3. 上塗りで、ひび割れや剥離が発生するのは、塗り層で下塗りほど貧調合にしたことによる。
4. 未乾燥のセメントモルタルにせっこうプラスターを塗り付けると、はく離やひび割れが発生するので、セメントモルタルを十分に乾燥させてから塗り付ける。

問題 1 2 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。 これを 4. サーマルムーブメントという。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. サーマルムーブメント

問題 1 3 職長として、現場打ちコンクリート下地のチェックに関して、最も不適当なものはいずれか。

1. 開口部、ひび割れ誘発目地、構造スリットなどの位置や形状について施工図との適合性を確認する。
2. 下塗りに先立ち、コンクリートが、ひび割れ・ジャンカ・過度の凹凸などがある場合は、監理者に報告し、すぐに是正作業に取りかかる。
3. 型枠は完全に取り外された状態であり、せき板の残材や過度のはく離剤付着などの接着上有害な残存物のない状態とすること。
4. コンクリート表面は、はく離防止のための目荒らしまたは清掃・脆弱層の除去などが行われていること。

問題 1 4 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装厚塗材Gとは、内装せつこう系厚付け仕上塗材のことである。
2. 内装薄塗材Cとは、内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材のことである。
3. 外装薄塗材Eとは、外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材のことである。
4. 内装薄塗材Wとは、内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材のことである。

問題 1 5 現場の監理者より、コンクリート面で二丁掛けタイルを接着剤張りとした、セメントモルタルによるタイル下地の計画案の提出に関して**最も不適當**なものはどれか。

1. コンクリート面を超高圧洗浄とした。
2. 吸水調整材を 4 から 5 倍液とした。
3. 下地調整塗材を CM-1 とした。
4. タイル下地モルタル仕上げ表面を金鋳仕上げとした。

問題 1 6 在来木造軸組建築物の A 邸の外壁二層通気構法の設計仕様書で 1 から 4 のような記載があったが、記載内容に関して、**最も不適當**なものはどれか。

1. ラス下地板の断面寸法は 12mm×75mm とする。
2. 木軸側の防水紙は、アスファルトフェルト 430 とする。
3. ラスは 700 g / m²以上の異形ラスとする。
4. ステープルは、1019 J 程度のものを使用する。

問題 1 7 品質確保の促進等に関する法律に関して、**最も不適當**なものはどれか。

1.住宅の品質確保の促進等に関する法律で 5年間の瑕疵担保責任の対象となる部分に関して、2.雨水の浸入を防止する部分は、3.住宅の屋根又は外壁の開口部に設ける戸、
わくその他の建具があり、これらの部分には4.ブチルテープ等を張るなどして、対処する。

1. 住宅の品質確保の促進等に関する法律で 5年間の瑕疵担保責任
2. 雨水の浸入を防止する部分
3. 住宅の屋根又は外壁の開口部に設ける戸、わくその他の建具
4. ブチルテープ

問題 18 左官用語の解説に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. コールドジョイントとは、コンクリート打ち込み継続中、前の層のコンクリートを打ち込んでから相当時間経過した後に、次のコンクリートが打ち継がれたときに生ずる不連続面のことである。
2. ジャンカとは、型枠解体後、硬化したコンクリートの表面に見られる、空隙の多い不均質な砂利の露出、凝集部分のことである。
3. 白華とは「ブリージング」ともいい、レンガ目地、コンクリート等の表面に発生する結晶化した白色の物質のことである。
4. レイタンスとは、コンクリート打設の際、浮き水と一緒に浮上したセメント中または骨材中の微粒子からなる薄い泥状物の層のことである。

問題 19 仮設工事計画に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 作業所に設置する現場事務所・作業員休憩所等は、直接仮設工事に区分される。
2. 仕様、構造等の条件が明示されていない、施工業者の自主性と企業努力に委ねられる仮設工事を任意仮設という。
3. 設計仕様、数量、設計図面、施工法、配置などが指定されている仮設工事を指定仮設という。
4. 鋼製足場のパイプサポート、角パイプなどで構成される支保工足場等は、直接仮設工事に区分される。

問題 20 基本計画に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 重点工程を見極め、常時集中的に作業を進めるように考える。
2. 繰り返し作業により習熟を図り、効率を高める。
3. 全体工期、全体工費に及ぼす影響の大きい工程を優先して考える。
4. 現場の制約等を考慮して資機材、労働力などの円滑な回転を図る。

問題 2 1 建設資材の発注プロセスに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 製作材の製作打合せに際しては、仕様書および設計図記載事項を理解するとともに、客先の意向や現場での施工上の納まりを十分に考慮し、それらの情報を正確にメーカーに伝える必要がある。
2. 一般材の納入依頼について、搬入費用をできるだけ軽減するために、可能な限り一度にまとめて納入するように依頼する。
3. 製作材の発注プロセスについて、購入手続きから納入までの時間を要するものが多く、全体工程に大きく影響を及ぼすものがある。
4. 製作材においては、資材が製作図通り製作されているかどうかを現場搬入前に工場立会検査で確認する必要がある。

問題 2 2 建設工事費の構成に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工事価格は建設工事では、直接工事費＋共通費である。
2. 直接工事費は工事目的物を作るのに直接要する費用である。
3. 工事価格は土木工事では、直接工事費＋間接工事費＋一般管理費等である。
4. 現場管理費は工事施工に当たる受注者の継続運営に必要な費用も含む。

問題 2 3 わが国建設業における労働災害に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害のことである。
2. 死亡災害を事故の型別で見ると、建設工事全体では建設機械による事故が最も多い。
3. 建設業は、他産業と比べて労働災害発生率が高い産業である。
4. 建設業は、多業種の専門工事業者が作業するため安全対策が難しい業種である。

問題 2 4 各種労働災害防止に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 高さが 2m 以上の所で施工する足場組立・解体には、作業床を設置する必要がある。
2. 解体工事では、石綿による健康障害防止対策を考える必要がある。
3. 居ながらリフォーム工事では多くの場合、電気やガスを止めずに行うので安全である。
4. WBGT（暑さ指数）は熱中症対策に有効な情報である。

問題 2 5 法で定められた建設現場における安全管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 作業員の保護具の着用・使用は遵守義務である。
2. 型枠支保工の組立作業は、作業主任者を選任しなければならない作業に含まれる。
3. 安全管理を進めるために、安全な作業環境を保つ必要がある。
4. 元請業者は、新たに就労する作業員に対して、特に新規入場者教育を行う必要はない。